

有賀 妙子

ARIGA Taeko

教授

[現在の専門分野]

情報デザイン、情報教育

[現在の研究テーマ]

メディアデザインにおけるプログラミングの役割とその教育に関する研究

[学 位] 理学修士 (東京工業大学)

[所属学会] 情報処理学会、ACM、日本デザイン学会

■ 主要研究実績

(著書) 新インターネット講座 (共著) 北大路書房	2005年
マルチメディア表現 (共著) 実教出版	2005年
すべての人のためのJavaプログラミング (共著) 共立出版	2007年

(論文) ネットワークリテラシー教育の授業設計と教材開発 日本教育工学会論文誌	2003年
Teaching materials to enhance the visual expression of Web pages for students not in art or design majors <i>Computers & Education</i>	2008年
Learning Course for Sensory Interaction ACM SIGGRAPH ASIA 2009 Education Program	2009年
Sensory vision-development of a course for physical interaction and graphics <i>Computers & Graphics</i>	2010年
フィジカル・インタラクションを使ったメディア造形基礎教育におけるプログラミング学習の実践 情報処理学会論文誌	2011年

(学会発表) Look And Think Exercises On Visual Communication Design For Non-Designers The 2nd International Conference on Design Creativity (ICDC2012)	2012年
---	-------

■ 研究・社会活動等

情報処理学会優秀教材賞	2003年
情報処理学会 コンピューターと教育研究会 運営委員	2000年

■ 学内外研究費による主要研究活動歴

同志社女子大学 研究助成金 (研究プロジェクト) メディアデザイン分野の教育ツールの開発	2006年~2008年
同志社女子大学 研究助成金 (個人研究) sensory vision を使った表現感性教育プログラムの開発	2009年
同志社女子大学 研究助成金 (個人研究) ヴィジュアルコミュニケーションにおける情報デザイン力育成のための基礎教育プログラムの開発	2010年
同志社女子大学 研究助成金 (共同研究) スマート端末を利用したアイデアプロセッシングのためのクラウド・プッシュ型システムの研究	2011年~2012年

■ 主要な担当授業科目

[大学院] 表現文化特殊演習
[大 学] プログラミングA、ヴィジュアルコミュニケーション、情報メディア応用演習、卒業研究・制作など

インタラクティブなメディア表現のための教育プログラムを探求する

メディアデザイン基礎教育プログラム

テレビや映画という従来型メディアに加え、ケータイやインターネットなど新しいメディアを介したコミュニケーションが広く浸透しています。そこでは、インタラクティブな表現メディアとしてコンピュータが使われます。人とコンピュータとのインタラクションは、マウスやキーボードのような装置に限りません。マルチメディア表現における物理的・身体的な入出力インタフェースの特性とそこに生まれる感覚について学習・考察することは、メディアを仲介として表現する力を身につけるために重要です。

この目的で、入出力デバイスキット (IOモジュールとセンサ類) とそれを制御するプログラム群を、教育ツールとして開発しました。開発したツールは、電子工学の専門的な知識や電子

工作を前提とせずに、物理的・身体的な入出力を扱うインタラクティブなメディア表現の制作を可能にします。それをプラットフォームとして、教育トレーニングのモデルを提案実践しています。

メディアコンテンツ共同制作

社会が求める情報をわかりやすく一般の人々に伝えることを目的としたメディアコンテンツの制作プロジェクトを2004年度より行い、本学科森教授とともに指導に当たっています。ゼミ学生が、日本原子力研究開発機構や総合地球環境学研究所、京都市などの外部機関の協力を得て、科学や環境、行政に関係するテーマを取り上げ、アニメーションや映像、Webコンテンツなどさまざまな形態のコンテンツを制作しています。



情報を見て考える情報デザイン教育の開発

高度なインタラクティブ性を持ったアプリケーションの開発やメディアコンテンツの制作は広く一般のユーザーにも可能なものとなり、分野を問わず多くの学部・学科において、情報をいかに構造化し表現するかという、情報デザインマインドが求められています。テーマとする世界を観察し、それを分析して、アイデアの発想力や表現の独自性へつなげる情報デザイン基礎教育のプログラムを開発しています。